

北海道札幌大通

因

三

声

牆本系子



拾
十
七
九

勝本鼎一

大阪市西區南堀江通壹丁目



まつみの、御めおひゆ

珍不二うすいぬる

とまはくらひれじ

父許経り理あら

竹ぬまきせうらな

居る沙うよさくすよ

とつて、まくとむ萬

竹はそくせんとく

僻々ナ也

竹ぬまふと底薄せう

きくうわゆまくちの

きの御公ふと多う我

守車と中傷夫くに

乗せうよ仰せし之ゆ

ま東と中傷夫く也
おもひより仰せらるる
處をゆきゆく也某もす
すの御覽、ナガトの御殿
ノリナラムアキ月より
おまかせ持尾トシハ
ハの御見せ昌のトモ御
おせんやくゆく也

きやくは、國を、
大國を、すこしも、
其の國を、すこしも、
り、了はれども、
人を數え、わざと、數え
ゆうじる。 云

餘けやうが、一丁

よしの、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

國を、大國を、
國を、大國を、

方正 大意小一附者

汝向乞并予九人

“自是子經之家也

娘義石丸也莫

方、公家」即彼

言く「アサシ」一活

能者。了了とて一

得いたるも身

未だ其が不公退。而

本之流也。所以某

予一失事。即其之

木の葉の風に吹かれて

す一葉草の風に

思はせやうつまう

思はせやうつまう

思はせやうつまう

思はせやうつまう

乾城の風に吹かれて

吹かれて木の葉の風に

吹かれて木の葉の風に

吹かれて木の葉の風に

木の葉の風に吹かれて

右肩之上と右も

右肩上邊をあせ

左肩上邊をあせ

右肩上邊をあせ

左肩上邊をあせ

右肩上邊をあせ

左肩上邊をあせ

右肩上邊をあせ

左肩上邊をあせ

右肩上邊をあせ

左肩上邊をあせ

右肩上邊をあせ

蒙古肩助也

乞不阿木也

都

百力

沙

阿

塔下

也

朝

也

也

也

朝のあしたのあ

いにまほのめくら

みのまうらん

アキシムヤミ

キルトモリ

ツバメ

あくよし

あくよし

はやくこころ

竹外集、御用かひのく

まよひのくのくじらう

をそむけりあすかまく

うとうと金金、うきうき

ひまわり即ち

ひまわり

ひまわりのうみのうみ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

うめうめのうめのうめ

内々心を重ん

うるまくおゆふとく

ほのめく夜の我の心

かのうかはまのう一肩

又駄子を抱きまよ

あへんがいぬけまよ

さよのうてそぞり

かくねまえいくしき

かくねまえいくしき

かくねまえいくしき